



自衛隊による給水活動(玉川小学校/平成30年7月10日)

**災害から復旧・復興へ  
1年の主な動き**

**平成30年7月**

- 5日 災害対策本部設置
- 6日 自衛隊へ救助を要請
- 7日 29カ所で避難所を開設
- 7日 12カ所で給水所を開設
- 7日 市内外15カ所で入浴施設を開放
- 8日 災害ごみの受け入れを開始
- 8日 支援物資の受け渡しを開始
- 9日 高梁市災害ボランティアセンターの開設
- 岡山自動車道「岡山総社IC・賀陽IC」無料通行措置

- 14日 義援金の受け付けを開始
- 13日 全小・中学校で授業が再開
- 17日 「水道水の安全宣言」により給水活動を終了
- 18日 J.R.伯備線代行バスの運行開始
- 19日 激甚災害に指定される
- 24日 J.R.伯備線の全面運転再開
- 1日 高梁市災害ボランティアセンターが「高梁市災害支援センター」へ移行
- 9日 「平成30年7月豪雨災害復興対策本部」復興対策課を設置
- 平成30年第4回高梁市議会(臨時)で災害関連補正予算を計上
- 22日 避難所を閉鎖(入浴施設含む)
- 22日 高梁市斎場火葬業務を再開
- 11月 被災市町村合同任期付職員(土木職)採用試験の実施を発表
- 12月 クリーンセンターが完全復旧
- 平成31年1月 公費解体を開始
- 29日 「高梁市復興計画」を策定

- 4月 1日 「防災復興推進課」を新設
- 令和元年6月 1日 新成羽川ダム事前放流運用開始
- 13日 「高梁川水系タイムライン」が完成
- 28日 市ホームページで河川監視カメラ画像の配信を開始
- 30日 ききょう緑地グラウンドでの災害ごみ受け入れを終了
- 大規模水害対策訓練



多くのボランティアが高梁市へ(高梁市社会福祉協議会/平成30年7月14日)

# 平成30年7月豪雨から1年 復興へ向けて がんばろう高梁

平成30年7月5日から降り続いた3日間の記録的な豪雨は、高梁市にかつてない甚大な被害をもたらしました。今月号では、平成30年7月豪雨災害からの1年を振り返るとともに、復旧・復興へ向けた歩みを紹介します。

**問** 秘書広報課 ☎(21)0210

## 復旧・復興へ向けて

平成30年7月豪雨により市内各地で甚大な被害が発生してから1年がたちました。改めまして、被災された皆さまに心からお見舞い申しあげます。また、多くの皆さまから温かいお力添えをいただいたことに深く感謝申し上げます。

この災害における本市の公共土木施設総被害額は県下で最大規模となり、市民生活や経済活動に甚大な影響を及ぼしました。この間、皆さまのご支援・ご協力に支えられながら、一日も早い復旧・復興に向けて取り組んでまいりました。

市は、復旧・復興への道しるべとなる「高梁市復興計画」を策定しました。単に被災前の姿に戻すことを目的にするのではなく、本市のさらなる発展の礎をつくり、市民の皆さんが安心して暮らせるまちづくりの実現に向けて取り組んでまいります。

今後も国や県との連携をより一層強化し、被災された皆さまの生活再建や迅速な災害復旧工事の実施など、復旧・復興への取り組みをさらに加速させてまいります。

高梁市長 近藤隆則

## 大規模水害対策訓練

「令和元年度高梁市大規模水害対策訓練」(市・消防本部主催)を行いました。

当日は消防団員や地域住民など約1000人が参加。豪雨により発生した災害を想定して、土砂に埋もれた車と家屋からの被災者の救出や、土のう・水防板の設置などの訓練を行いました。

また、市役所内に災害対策本部を設置し、避難所の開設や市道の現地確認、給水資材の配布なども行いました。

平成30年度は訓練実施後に平成30年7月豪雨による未曾有の災害に見舞われ、今後起こる可能性のある災害に備えるとともに、市民の皆さんの生命と財産を守るために関係機関との連携を強化していきます。



災害対策本部会議の様子